



平成27年10月2日

各 位

会 社 名 株式会社 セキド
代表者名 代表取締役社長 関戸 正実
(コード番号 9878 東証第二部)
問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭
(TEL. 03-6273-2053)

第2四半期業績予想との差異に関するお知らせ

平成27年4月3日に公表した平成28年3月期第2四半期累計期間の業績予想との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異について

平成28年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値との差異(平成27年2月21日～平成27年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,500	33	2	△12	△0.85
実績値(B)	4,794	△159	△198	△209	△14.81
増減額(B-A)	△706	△192	△200	△197	
増減率(%)	△12.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年2月期第2四半期)	4,599	△232	△261	△231	△16.36

第2四半期(累計)業績予想数値との差異の理由

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、輸出や生産部門および個人消費の回復基調が一服し、景気の踊り場にさしかかっております。

当業界におきましては、高所得層の消費に停滞感がうかがわれるものの、期初より継続して緩やかな回復基調にあります。一方で円安による国内価格の上昇や夏季猛暑など悪天候の影響もあり、高額輸入ブランド品の回復は一進一退という状況であります。

このような環境下、当社は、前事業年度に開始した、インバウンド向け免税店への商品供給による売上拡大に取り組む一方、既存店舗においても、6月より全店舗での免税販売をスタートさせました。既存店のマーチャンダイジングでは、中・低価格帯の商材の開発、投入に注力し、収益面での改善にも取り組んでまいりました。

一方、不採算店1店舗の閉鎖、売場面積圧縮による効率化を企図した店舗改装を1店舗、国内顧客向けのメルマガや中国向けSNS販促などを推進してまいりました。このように販管費のローコスト化に注力しつつ、中・低価格帯の商材など、増収のための施策も講じ、業績の回復に取り組んでまいりました。

しかしながら、夏季の猛暑など悪天候の影響や高所得層の消費停滞などの影響もあり、時計、バッグ部門の高価格帯輸入ブランド品が伸び悩み、売上高は4,794百万円(前年同期比4.2%増)、営業損失は159百万円(前年同期は232百万円の営業損失)、経常損失は198百万円(前年同期は261百万円の経常損失)、四半期純損失は209百万円(前年同期は231百万円の四半期純損失)となりました。

当社の業績は年末・年始が最大需要期であり、第4四半期会計期間のウェイトが高くなっております。さらに今期は決算期変更により下期の営業期間が7か月となっております。従いまして、通期の業績予想につきましては修正しておりません。経済環境は緩やかながら回復に向かっており、売上が好調に推移しているeコマース部門も併せ、最大需要期に向けた新規商材の導入にも取り組み、きめ細かな販促と接客に努め、通期業績を達成してまいります。

以 上